

# 随想 争いとそれぞれの正義

## 人間社会の中で、互いを守り合い、リスクペクトし合うことの重要性

株PPQC研究所 加藤 宏光

先週末に、宮崎駿の、監督によるアニメDVD『もののけ姫』を入しぶりに観た。このビデオは二〇一〇年に著者がコペンハーゲン大学の獣医学部、アンドリュー・ミキ・ボヤーセン教授当時准教授のお宅を訪ねた時に、日本のアニメが大好きな教授の長女に、土産として持っていたモノである。上映されたとき妻と見に行ったこともあり(一九九七年)、好きなアニメの一つでもあった。

宮崎駿氏によるアニメの特徴は『本質的な悪人がいない』点である。この視点についてはあとで述べることにして、ご存じない方に少し筋を紹介する。

宮崎駿氏の物語背景はさまざまなる事象モノや時代がキメラ状になっているため、この物語の時代背景も特定し難いが、戦国時代を想定し

ているようであるので、取りあえずは戦国とする。また、主人公は北の地に住むエミシンの長一族に連なる『アシタカ』という少年と、山の獣たち(イノシシ、山犬)に育てられた(と思われる)娘『もののけ姫』である。少年アシタカは、村を襲ったタタリ神と呼ばれる化け物を退治したが、右腕に死の呪いを受けてしまう。その正体は、鉄の礫(つぶて・弾丸)を撃ち込まれ、人への憎しみからタタリ神と化した巨大なイノシシだった。アシタカは呪いを解くため村を出て、西の地へ向かう。旅の末、砦のようなタタラ場へたどり着く。そこを治めている女長エポシは、タタラを踏んで鉄を作り、また火砲(石火矢)を村人に作らせて、鉄を狙う地侍たちや山に住むもののけから村を守っていた。イノシシに鉄

の礫を撃ち込みタタリ神としたのもエポシだ。エポシたちには鉄を作るために自然を破壊している自覚はあったが、シシ神の力を借りたもののけ達を敵としていた。そのエポシの命を狙うのが『もののけ姫』。正体は山犬に育てられた人間の娘(サン)である。窮地に陥ったサンを救うためアシタカは瀕死の重傷を負ってしまふ。サンはアシタカをシシ神(生・死を司る神)の力で傷を癒し……物語は進んで、最後にはエポシは森の生き物と共生しながら生きるすべを探すと物語は結ばれる。

先に述べたように、宮崎駿氏の物語にはすべての面で悪人は登場しない。この物語でも、タタリ神、エポシですらそれぞれの仲間内では正義を通し、仲間にも慕われている存在である。そうでありながら、

新潮新書に『もつ』と書いてはいけない 橘玲著』という本がある。

著者の好きな作家の一人で、その辛辣な調子にはつなげる事柄が多い。前書きで『日本人は世界でもっとも自己家畜化された特別な民族』とあり、彼自身この書物について『これは不愉快な本だ。だから気分よく一日を終わりたい人は読むのをやめた方がよい』と前置『もつ』と書いてはいけない。残酷すぎる真実』の冒頭に書いていたが、続編のこの書物は『もつ』と不愉快な本』に違いない、と思われるが著者の心するところは『もつ』ではない、『もつ』とされることを真剣に考えよう、というところにある、と紹介している。もつと目次を見ても気になる項目が多い。そのいくつかを拾ってみよう。

これらのほかにも衝撃的で興味深い記述も多いが、引用は冗長に過ぎるので、興味ある方はぜひご自身で読まれることをおすすめする。これまでも何度か触れたことのある『シンギュラリティ』(AIが人知を超えるとき)を考えることが多い。これからの社会を生き延びて行く上で、何をよりどころとすれば良いか、ということがである。

やさしいことからあまり主張されない(ように著者には感じられる)。現実の社会には、こうした能力差を内に秘めて雑多な人々が生活している。

社会では、このような差がさまざまな能力差となって表れるため『ヒエラルキー(階層構造)』を形成する。組織には、人間の尊厳という原則的な基準とは別構造な三角構造が形成される。経済社会でも同様である。

●日本人の三分の一が日本語を読めない!

この『もつ』と書いてはいけない……』というこの書物の「先進国の成人の半分はかんたんな文章が読めない」という項を参考にすれば、二十世紀のアメリ力では、成人人口約二億二、六〇〇万人のうち、難しい文章を読めない人が約九、二〇〇万人、地図や図表を理解できない人が約七、三〇〇万人、コンピュータを使つた作業ができない人が約二億二、〇〇〇万人もいて、すべての点で優秀と評価された人は成人人口のおよそ二三% (二、八〇〇万人)程度だ。その他の八七%(約一億九〇〇〇万人)は、程度の差はあれ、適応に何らかの困難が生じていることになる。

ここで起きがちな現象は、上位から下位への蔑視(差別)である。忌むべきこの意識は上位に位置することから出る自意識が『うぬぼれ』へと発展し、そうでない位置付けの者への軽視・蔑視へと発展して行きがちである。

本語の巧みな研修生が日本人でない』とわかつたとき、著者に彼のことをあたくも自分より劣つた者であるかのように、軽蔑した語調で研修生についての陰口を言うのを聞いたことがある。これまでの人生で数少ない『極めて不愉快な出来事』のQとして記憶している。

●先進国の成人の半分はかんたんな文章が読めない!

その昔、公務員であった当時のことである。勤務する研究所(アジア系の大学卒業生が、数か月鶏病を学びにきたことがある。彼は日本語が堪能である上、大学で優秀な成績を修めていたし、学ぶ姿勢も真摯なものであった。

この出来事のような差別感、能力差ではもつと根拠を持って現れる可能性があるだろうか。

しかし、シンギュラリティ時代になれば、中途半端な能力はAIに無視され、無能力者に分類されよう。いわゆるAIに仕事を奪われる層に繰り込まれる。

●差別とは合理的に説明できないこと

その職場に、現業を担う立場の中年現業員が勤めていたのだが『日

世の中の常で、それぞれの正義がぶつかり合い、さかひとなることは多い。その時、よくある感情は『自分は正しい。正しい考え・行動に正対する事象は誤り、もしくは悪である』と決め付けてしまいがちなわがままなモノである。利害が対立するとき、とくにこの傾向は強くなる。

●凶器への投資効果は年率一〇%

このような表現は差別に繋がらない。

先週末に、宮崎駿の、監督によるアニメDVD『もののけ姫』を入しぶりに観た。このビデオは二〇一〇年に著者がコペンハーゲン大学の獣医学部、アンドリュー・ミキ・ボヤーセン教授当時准教授のお宅を訪ねた時に、日本のアニメが大好きな教授の長女に、土産として持っていたモノである。上映されたとき妻と見に行ったこともあり(一九九七年)、好きなアニメの一つでもあった。

●先進国の成人の半分はかんたんな文章が読めない!

この重要な表現は差別に繋がらない。

その職場に、現業を担う立場の中年現業員が勤めていたのだが『日

●先進国の成人の半分はかんたんな文章が読めない!

この重要な表現は差別に繋がらない。

その職場に、現業を担う立場の中年現業員が勤めていたのだが『日